

「地域貢献に関する取組み」の事例(全132事例)

銀行名	事例名	頁
北海道	「どうぎんカーリングクラシック2015」の開催	1
青森	「企業による環境再生の森づくり」への参画	3
みちのく	みちぎんキッズスクール 夏休み親子見学会の開催	4
みちのく	全国高校生金融経済クイズ選手権「エコノミクス甲子園」青森大会の開催	5
みちのく	スポーツ競技(カーリング)を通じた地域貢献活動	6
みちのく	環境再生への取組みを通じた地域貢献活動	7
みちのく	あしなが育英会への寄付を通じた地域貢献活動	8
岩手	低年齢層向けTV番組内金融教育ミニコーナー	9
岩手	ネーミングライツの取得(文化・スポーツ活動への取組み)	10
岩手	赤レンガ館の公開活用(文化活動への取組み)	11
七十七	全国高校生金融経済クイズ選手権「エコノミクス甲子園」宮城大会の開催	20
七十七	東北学院大学への提供講座開設	21
七十七	体験型教育プログラム「スチューデント・シティ」の活動支援	22
荘内	公益信託荘内銀行ふるさと創造基金	23
荘内	スポーツ振興への取組み	24
荘内	荘銀かねやま絆の森における森づくり活動	25
山形	森林整備を主体とした環境保全活動への取組み	26
東邦	卓上型対話支援システム「COMUOON(コミュニケーション)」の設置	27
東邦	海外発行カード対応ATMの設置	28
常陽	「金融教育」への取組み	29
常陽	創立80周年記念事業「感謝プラン80」の実施	30
足利	金融経済教育への取組み 【1】全国高校生金融経済クイズ選手権「エコノミクス甲子園」栃木大会の開催 【2】「あしぎんキッズスクール『お金の体験学習』」の開催 【3】宇都宮大学への寄附講座	31
足利	環境保全への取組み 【1】足尾の山への植樹活動 【2】『あしぎんの森』の創設	33
群馬	社会貢献活動への取組み	34
群馬	環境問題への取組み	36
群馬	金融経済教育への取組み	38
武蔵野	小学生向け金融教室	39
武蔵野	小学生向け学校コンサート	40
武蔵野	小学生向けサッカー教室	41
武蔵野	公益信託を通じた環境保全活動への助成	42
千葉	「ひと」の未来を育む活動	43
千葉	「環境」の未来を育む活動	45
千葉	「産業」の未来を育む活動	46
千葉興業	夏休み探検隊「サマーキッズスクール2015」の開催	47
千葉興業	「ちば興銀金融教室」の開催	50
東京都民	「認知症サポーター」養成への取組み	51
東京都民	献血への協力	52
東京都民	「海の森」植樹活動への参加	53
横浜	環境保全活動	54
横浜	次世代への取組み	55
横浜	魅力あふれる地域づくり	57
第四	「だいしアカデミー」の開催	59


銀行名	事例名	頁
山梨中央	職場体験学習の受け入れ	62
山梨中央	森林整備事業（里地里山保全事業）の実施	63
八十二	地域貢献に関する取組み（金融経済教育への取組み）	64
八十二	「八十二の森」活動の実施	65
八十二	環境ボランティアの実施	66
八十二	環境教育の実施	67
北陸	金融経済教育への取組み	68
北陸	環境問題への取組み	69
北陸	地域貢献に関する取組み	70
富山	高岡法科大学経済学部での寄附講座「銀行論」の実施	71
富山	「全店一斉ボランティア清掃活動」の実施	72
富山	「社会に学ぶ14歳の挑戦」の受け入れ	73
富山	「夢作文大募集13」の実施	74
富山	「ボエム大賞」および「ボエム教室」の実施	75
北國	金融経済教育への取組み	76
北國	子育て支援への取組み	77
北國	環境への取組み	78
福井	「えきまえアントレ・キッズ2015」への参加（金融経済教育への取組）	79
福井	「ふくぎん夏休み親子銀行員体験ツアー2015」の開催（金融経済教育の取組み）	80
大垣共立	「OKBストリート」を起点とした地元商店街の活性化策の実施	81
大垣共立	地方銀行連携「地方からの贈り物」プロジェクト	82
大垣共立	防災のための小冊子「おうちできちんとぼうさい」発行	83
大垣共立	ポイントプログラムの引換特典に岐阜県産品を追加	84
大垣共立	移住定住促進支援	85
大垣共立	春日井市高蔵寺ニュータウンの活性化	86
大垣共立	「OKB森林共和国」における恵みの森林づくりへの取組	87
大垣共立	地元体操クラブの命名権（ネーミングライツ）取得による地域スポーツ振興への貢献	88
十六	『第十回 全国高校生金融経済クイズ選手権「エコノミクス甲子園 岐阜大会」』の開催	90
十六	『夏休み親子特別企画「じゅうろくキッズフェスタ！」』の開催	91
十六	「じゅうろくプロムナードコンサート2015」の開催	92
十六	「十六銀行 卓球教室」の開催	93
スルガ	「SURUGA ECO ACTION」の取組み	94
スルガ	教育・文化・福祉支援活動	95
清水	第48回清水銀行杯フレンドリーシティ清水少年少女サッカー大会	96
清水	三保松原植林・清掃活動	97
清水	静岡交響楽団への特別協賛	98
三重	NPOを応援する取組み	99
三重	「夏休み！銀行ワクドキ体験隊」の開催	100
百五	オリーブの栽培普及を通じた地域活性化	101
百五	「百五銀行 歴史資料館」の開館	102
滋賀	金融経済教育への取組み	104
近畿大阪	金融経済教育（りそなキッズマネー）への取組み	105
近畿大阪	金融経済教育（職場体験、出張授業）への取組み	106
近畿大阪	エコノミクス甲子園地方大会事務局としての取組み	107
近畿大阪	近畿大阪銀行の森づくり（交野市）等で環境保全への取組み	108
近畿大阪	大阪府との「高齢者にやさしい地域づくり推進協定」の締結	109



銀行名	事例名	頁
近畿大阪	関西フィルハーモニー ファンドレイジングによるチャリティコンサート	110
近畿大阪	小児がん等の医療ケアを支援するチャリティウォークへの参加	111
池田泉州	「地域」とともに『ひと』の創生をサポート ～『ひと』のライフサイクルに応じた切れ目のないトータルサポート～	112
南都	ホッケーを通じた地域スポーツ振興	113
南都	「ナント・なら応援団」による観光ボランティア活動	114
紀陽	「熊野古道の参詣道環境保全活動」について	115
鳥取	農業を通じた連携・交流と地域活性化支援	116
鳥取	ふるさと納税を促進する定期預金の取扱いと地元特産品の販路拡大支援	117
広島	金融経済教育への取組み	118
山口	社会貢献への取組み	119
阿波	「こども応援債」の取扱い開始	120
阿波	地元徳島の学術や文化振興に貢献します	121
阿波	地域の活性化に取り組んでいます	122
阿波	青少年の金融教育に取り組んでいます	123
阿波	徳島魅力再発見ガイドブックを発刊	124
百十四	金融教育活動	125
百十四	環境保全活動	126
百十四	地域スポーツの振興	127
百十四	見守り活動の実施	128
百十四	「瀬戸内国際芸術祭2016」を積極的に応援	129
百十四	世界初「天体望遠鏡博物館」開館のお手伝い	130
伊予	地域貢献に関する取組み	131
四国	エコノミクス甲子園高知大会	133
四国	<四銀>夏休み子ども教室 「お金のセミナー」	134
四国	<四銀>夏休み子ども教室 「科学教室」	135
四国	環境保全への取組み	136
福岡	「みんなに優しい」銀行を目指して ～ユニバーサルマナー検定3級講座の受講開始	137
筑邦	「道の駅 うきは」への協力	138
西日本シティ	地域の祭りへの参加	139
西日本シティ	「ワンクmeets博多人形展」の開催	140
西日本シティ	「アジアゲートウェイとしてのFUKUOKA」の開催	141
北九州	北九州市プレミアム付商品券発行運営業務の一括受託を通じた地域経済貢献について	142
北九州	社会貢献への取組み	144
佐賀	社会貢献への取組み	145
十八	「長崎が目指す2つの世界遺産」構成資産の清掃活動実施	146
十八	長崎ランタンフェスティバル「皇帝パレード」への参加	147
親和	「みんなに優しい」銀行を目指して～ユニバーサルマナー検定3級講座の受講開始	148
肥後	「学び舎応援私募債」による私募債発行企業と連携した教育支援（地域貢献）	149
肥後	環境問題への取組み	150
肥後	社会貢献活動への取組み	152
大分	金融教育への取組み：「親子で金融経済を学べるセミナー」	153
大分	高齢化問題への取組み：「大分オレンジカンパニー」登録	156
鹿児島	環境問題（森林整備）への取組み	157
琉球	第13回 りゅうぎんキッズスクールの開催	158

銀行名	北海道銀行
タイトル	「どうぎんカーリングクラシック2015」の開催
取組み内容	<p>【背景・経緯】 当行は、CSR活動の1つとして「カーリング」競技普及に取り組んでいる。 昭和54年の北海道カーリング協会設立時支援に始まり、平成22年11月には国内トップ選手の活動支援を開始、平成23年4月には女子カーリングチーム「北海道銀行フォルティウス」のメインスポンサーとなり、平成24年9月には、札幌市が建設した通年型カーリング施設のネーミングライツを取得（「どうぎんカーリングスタジアム」）するなどの取組みを実施。 このような地域におけるカーリング普及支援の一環として、国内外の強豪チームを集め、札幌市で開催されるカーリングの国際大会「どうぎんカーリングクラシック2015」を平成27年7月に初開催した(主管:一般社団法人札幌カーリング協会、特別協賛:北海道銀行)。夏季に国内外の代表クラスが集う国際大会を開催することにより、国内チームのレベルアップに寄与する他、出場選手が先生役を務める一般市民が参加できるカーリング「体験会」「指導会」を実施することなどにより、地域における競技普及、地域活性化を図っている。 本年8月には「どうぎんカーリングクラシック2016」を開催した。 今後も国際大会としての定着を目指し開催を続けていく予定。</p> <p>【取組みの概要】</p> <p>どうぎんカーリングクラシック2015 平成27年7月31日(金)~8月2日(日)の3日間、札幌市のどうぎんカーリングスタジアムにて前年度の日本選手権出場チーム(男女各4チーム)と韓国代表チーム(男女各1チーム)計10チームが参加し技を競い合った。優勝はTeam KOREA(男子)、準優勝はSC軽井沢クラブ(男子)、3位は北海道銀行フォルティウス(女子)。</p> <p>どうぎんカーリングクラシック2016 平成28年8月4日(木)~7日(日)の4日間、昨年同様どうぎんカーリングスタジアムで開催。 本年は男女別の大会とし、前年参加した韓国の他、中国・カナダ・ドイツチームが出場し、計16チームが参加する国際大会として規模を拡大。 男子の優勝はSturmay(カナダ)、準優勝はWang(中国)、3位はSC軽井沢クラブ(日本)。女子の優勝はCarey(カナダ)、準優勝はGim(韓国)、3位はKim(韓国)。 また、大会期間中に開催したカーリング体験会には28人の一般市民が参加し、大会として昨年以上の盛り上がりを見せた。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>

どうぎんカーリングクラシック2015



銀行名	青森銀行
タイトル	「企業による環境再生の森づくり」への参画
取組み内容	<p>1. 経緯 青森・岩手県境において行われた産業廃棄物の不法投棄事案に関し、青森県が策定した「青森・岩手県境不法投棄現場・環境再生計画」に基づく森林整備の取組みとして展開される「企業による環境再生の森づくり活動」に賛同し、森林整備事業への参画に至ったもの。</p> <p>2. 取組み内容 平成 27 年度は約 2,500 m²の土地に対し 1,500 本の植樹を実施(昨年度からの継続)。</p> <p>3. 成果 青森県が策定した「青森・岩手県境不法投棄現場跡地森林整備計画」に基づき、不法投棄現場跡地への植樹による森林整備に参画することにより、不法投棄によって失われた自然環境の再生への貢献が図られた。</p> 

銀行名	みちのく銀行
タイトル	みちぎんキッズスクール 夏休み親子見学会の開催
取組み内容	<p>【動機】 将来を担う子どもたちに、普段訪れる機会の少ない銀行を実際に見学していただき、社会のなかで銀行が果たす役割やお金の大切さ・正しい使い方などを理解してもらうために実施した。</p> <p>【取組み内容】 小学生を対象とし、以下のカリキュラムで銀行業務の説明や銀行内の見学などを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 銀行業務の説明 - 紙幣の鑑定や札勘の体験 - 銀行内の見学（地区センター・貸金庫室・役員室） - クイズ大会（早押し機使用） - 名刺交換（オリジナル名刺の作成） <p>【取組みの効果】 平成22年度より青森市の本店で開始。平成26年度からは弘前市においても実施しており、これまで累計で17回開催、延べ382名の生徒が参加。保護者からも好評で、地域のイベントとして定着している。</p> <div style="display: flex; flex-direction: column; align-items: center;">   </div>

銀行名	みちのく銀行
タイトル	全国高校生金融経済クイズ選手権「エコノミクス甲子園」青森大会の開催
取組み内容	<p>【動機】 社会にでる前の高校生に、世の中がどのような金融経済の仕組みで動いているか理解して読み解き、「自分のライフデザイン」や「自分とお金の関わり方」を考えてもらうきっかけとするために実施した。</p> <p>【取組みの内容】 高校生に楽しみながら金融経済を学んでもらうためのクイズ大会における運営全般を担った。</p> <p>【取組みの効果】 平成25年度から累計3回開催し、延べ34校99チーム198名が参加。高校生だけでなく、学校関係者などへも広く認知されてきている。</p>  

銀行名	みちのく銀行
タイトル	スポーツ競技（カーリング）を通じた地域貢献活動
取組み内容	<p>【動機】 「カーリングの街」を標榜する青森市に本店を構え、「子どもの未来を応援する」地域金融機関として、カーリングを通じた地域貢献活動を継続しており、その一環として、青森県カーリング協会が主催し、当行が特別協賛する、みちのく銀行CUP「第4回U-18カーリング選手権大会」を開催した。</p> <p>【取組みの内容・効果】 大会への特別協賛などを通じて、将来、青森県出身で日本を代表するような選手の育成・強化に繋がり、カーリング競技の振興を通じた地域の活性化に貢献している。</p> <p>また、大会会場は、当行が青森市と青森市スポーツ会館のネーミングライツ・スポンサー契約をし、スポーツ競技を通じて、『将来を担う子どもたちの夢が叶い青森から世界に羽ばたいてほしい』との思いをこめ、「みちぎんドリームスタジアム」と愛称を決めた施設でもあり、ネーミングライツ使用料で当施設内にあるカーリング場の利用期間が2ヶ月間延長されるなど、競技環境の改善にも貢献している。</p>  

銀行名	みちのく銀行
タイトル	環境再生への取組みを通じた地域貢献活動
取組み内容	<p>【動機】 青森県が計画している青森・岩手県境不法投棄跡地の環境再生活動に賛同し、「企業による環境再生の森づくり活動」へ参画した。</p> <p>【取組みの内容・効果】 平成26・27年の2年間で、当行役職員およびその家族が約240名参加。ブナやクリなどの広葉樹の苗木3,000本を植樹した。</p>  

銀行名	みちのく銀行
タイトル	あしなが育英会への寄付を通じた地域貢献活動
取組み内容	<p>【動機】 東日本大震災により遺児となった子供たちへの支援を通じた地域貢献に継続的に取り組む。</p> <p>【取組みの内容・効果】 平成23年から「東日本大震災・遺児支援『スマイル応援定期預金』」を販売。本商品は、初回満期日まで、毎年3月末の定期預金残高の0.01%相当額を、当行が遺児の支援資金として、「あしなが育英会」に継続的に寄付するもので、本商品発売以外にも「当行が主催する各種イベントにおける募金の呼びかけ」などを通じた募金活動を継続的に展開しており、この取組みに関する募金についても合わせて贈呈している。 寄付金総額は、平成23年から合計5回/21,371,287円となっている。</p> 

銀行名	岩手銀行
タイトル	低年齢層向けTV番組内金融教育ミニコーナー
取組み内容	<p>【動機（経緯）】 当行の金融教育のうち低年齢層向けの施策として、子供向け地元TV番組「らどんぱ！」内でご当地ヒーロー「鉄神ガンライザー」が登場する金融教育ミニコーナーを実施している。</p> <p>【取組内容】 (1) このコーナーは、低年齢層の学童が楽しみながら学べるよう、「鉄神ガンライザー」に登場するキャラクターが県内の小学校を訪問し、お金にまつわる豆知識的な授業を行うコーナーとなっている。 (2) 番組放送 テレビ岩手 子供向け番組「らどんぱ！」 毎週日曜 朝7:00~7:30</p>

銀行名	岩手銀行
タイトル	ネーミングライツの取得（文化・スポーツ活動への取組み）
取組み内容	<p>【動機（経緯）】 盛岡市が施設の持続的な運営と維持管理とともに地域住民へのサービス向上と地域経済の活性化を目的に展開している「ネーミングライツ事業」の趣旨に賛同し、同市と県内金融機関としては初となるネーミングライツ・パートナー契約を締結。</p> <p>【取組内容】 （１）平成２８年２月、盛岡市が所有する「盛岡南公園球技場」に対する施設命名権者（ネーミングライツ・パートナー）として同市と契約を締結。 （２）契約概要 愛称 「いわぎんスタジアム」 契約期間 平成２８年４月１日～平成３１年３月３１日（３年間） （３）このような文化・スポーツ活動への取組みを通じて、地域の人々、特に若い世代の「こころ」を育むなど、地域の人づくり活動に積極的に取組み、地域社会の持続的な発展に貢献していく。</p>

銀行名	岩手銀行
タイトル	赤レンガ館の公開活用（文化活動への取組み）
取組み内容	<p>【動機（経緯）】</p> <p>（１）当行では所有する国の重要文化財「岩手銀行（旧盛岡銀行）旧本店本館」の復原修理工事を平成２８年３月に完了。</p> <p>（２）歴史的建造物の修復・復原により文化遺産を継承し、地域経済の発展、文化振興に貢献し、あわせて企業価値の向上と創造を図るため、施設の一般公開を決定。</p> <p>【取組内容】</p> <p>（１）平成２８年７月１７日、「岩手銀行赤レンガ館」としてオープン。</p> <p>（２）施設を、「無料ゾーン」と「有料ゾーン」に区分し、「無料ゾーン」では多目的ホールでのイベント等を開催できるほか、「有料ゾーン」では、各種展示物やバーチャルシアターの鑑賞等を楽しむことができる。</p> <p>（３）本事業のコンセプトを「赤レンガから始まる、岩手銀行の新・地域活性化計画。～歴史と文化と地域の広場～」として、地域と一体となった「施設活用プラン」を策定し具体化していくことで、地域貢献に対する取組みを活発化させていく。</p>




赤レンガ館について

お知らせ

イベント情報

お問い合わせ

 最新情報

▶ いわてアートプロジェクト2016 マグダレナ・ソレ「Since That Day 展」、高校生写真公募展

イベント ◎ 掲載:2016年09月30日

- 日時:2016年9月30日(金)~10月11日(月)
- 場所:多目的ホール大・小
- 主催:いわてアートプロジェクト2016実行委員会

世界的に著名なマグダレナ・ソレさんの写真展と高校生の公募写真展です。

つづきを読む ▶

▶ 岩手銀行赤レンガ館 オープン記念イベント

イベント ◎ 掲載:2016年07月17日

- 日時:2016年7月17日(日)
- 場所:多目的ホール大
- 主催:株式会社岩手銀行

岩手銀行主催のオープン記念イベントを行います。
イベントの内容等詳細は決定次第お知らせします。

つづきを読む ▶

▶ 岩手銀行赤レンガ館 オープニングセレモニーについて

イベント ◎ 掲載:2016年07月17日

- 日時:2016年7月17日(日)
- 場所:多目的ホール大
- 主催:株式会社岩手銀行

10:00のオープンのに合わせて、オープニングセレモニーを行います。

つづきを読む ▶

お知らせ一覧

イベント一覧

赤レンガ館について

お知らせ

イベント情報

お問い合わせ

岩手銀行赤レンガ館について

岩手銀行赤レンガ館について

岩手銀行赤レンガ館は、1911(明治44)年に盛岡銀行の本店行舎として落成し、1936(昭和11)年に岩手殖産銀行(のちの行名を岩手銀行に変更)の本店として引き継がれ、1983(昭和58)年に岩手銀行新社屋完成に伴い中ノ橋支店となりました。

設計は東京駅でも知られる、辰野・葛西建築設計事務所によるもので、辰野金吾が設計した建築としては東北地方に唯一残る作品です。

2012(平成24)年8月3日に銀行としての営業を終了し、約3年半に及ぶ保存修理工事を経て、2016(平成28)年7月15日に一般公開されました。



盛岡銀行落成式と現在の岩手銀行赤レンガ館(マウスオーバー時)

施設概要

名称	岩手銀行赤レンガ館 (正式名称:重要文化財「岩手銀行(旧盛岡銀行)旧本店本館」)
指定・区分	国指定 重要文化財(建造物)
指定理由	(一)意匠的優秀なもの (五)流派的または地方的特色において顕著なもの
指定年月日	1994(平成6)年12月27日(文部省告示第151号)
所在地	岩手県盛岡市中ノ橋通一丁目2番20号
所有者・管理者名	株式会社岩手銀行
構造及び形式	煉瓦造、二階建、銅版葺
建築面積	693平方メートル

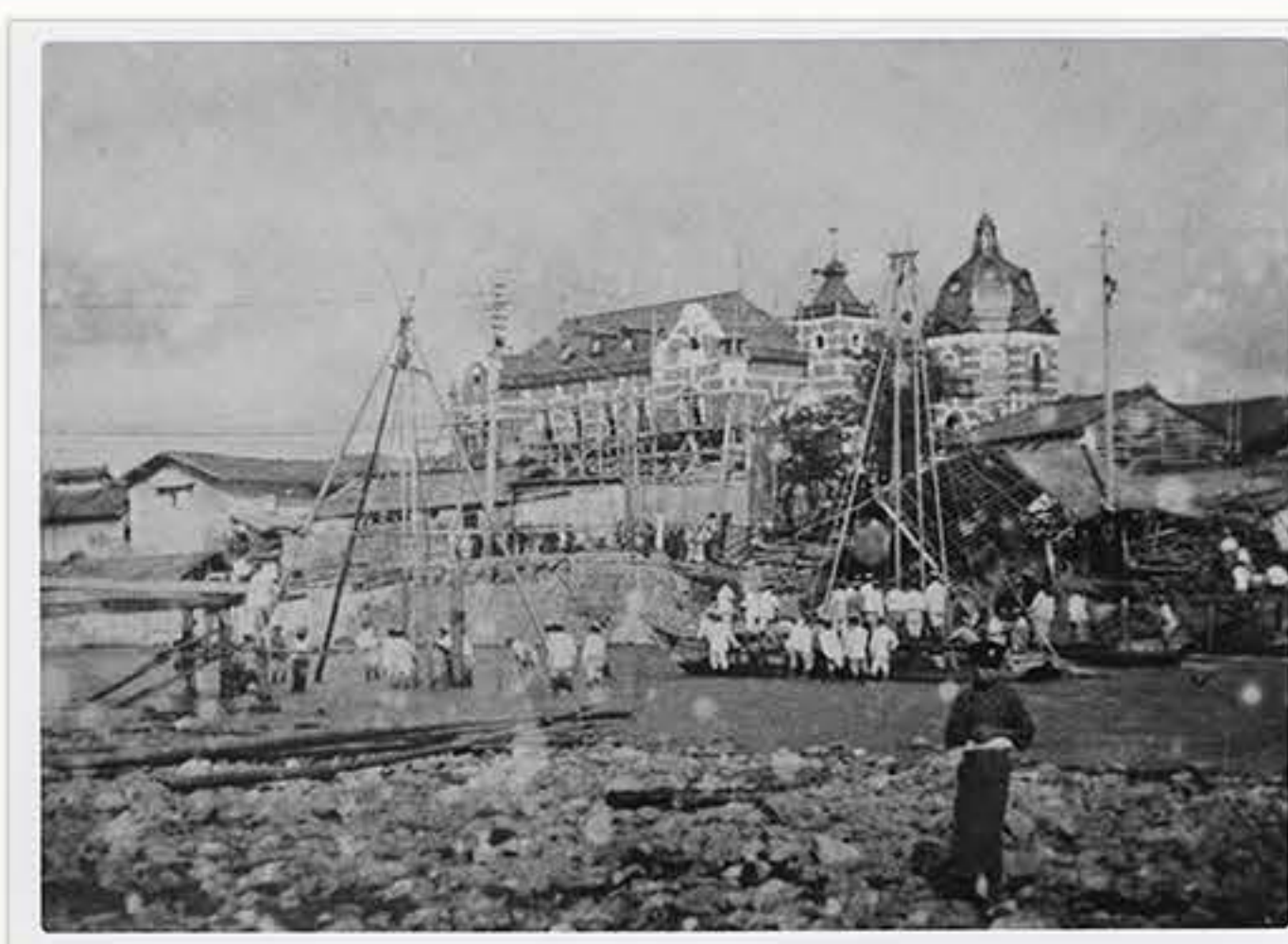
岩手銀行赤レンガ館の歴史

明治

1908

(明治41年)

5月5日、着工



1908年 建設中

1911

(明治44年)



1911年 外観

大正

1936

(大正11年)

岩手殖産銀行が買受、同行の本店となる



1936年 外壁が白色に塗られていた

1960

(大正35年)

昭和

1983

(昭和58年)

岩手銀行が本店を新築移転。岩手銀行中ノ橋支店となる

平成

1994

(平成6年)

11月27日、現役銀行として、初めて国の重要文化財に指定される

2012

(平成24年)

8月3日、中ノ橋支店としての営業終了



2012年 営業終了後、公開施設のために復元工事を開始

2016

(平成28年)

7月15日、岩手銀行赤レンガ館、公開施設としてリニューアルオープン

赤レンガ館について

お知らせ

イベント情報

お問い合わせ

施設案内

岩手銀行ゾーン(無料)

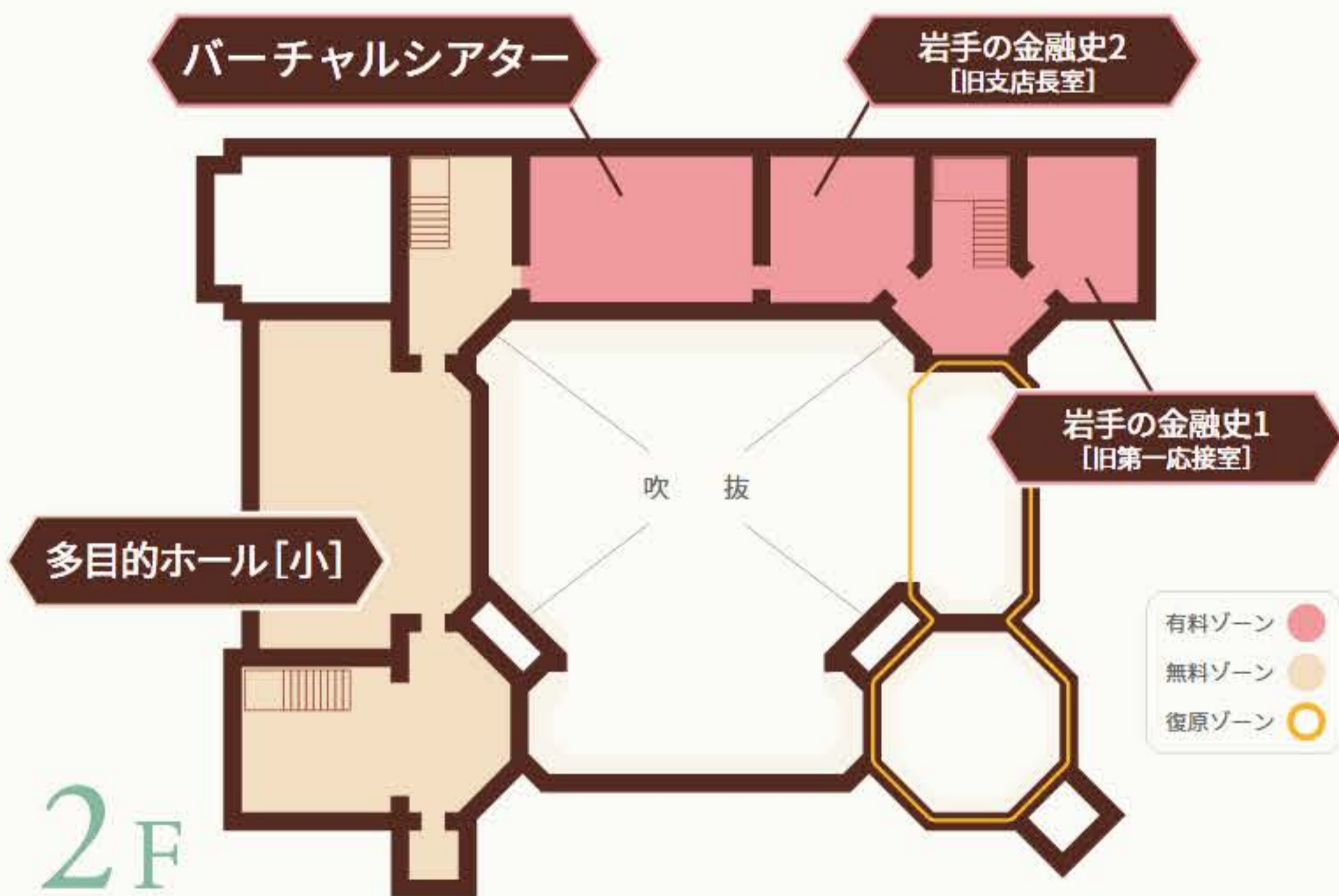
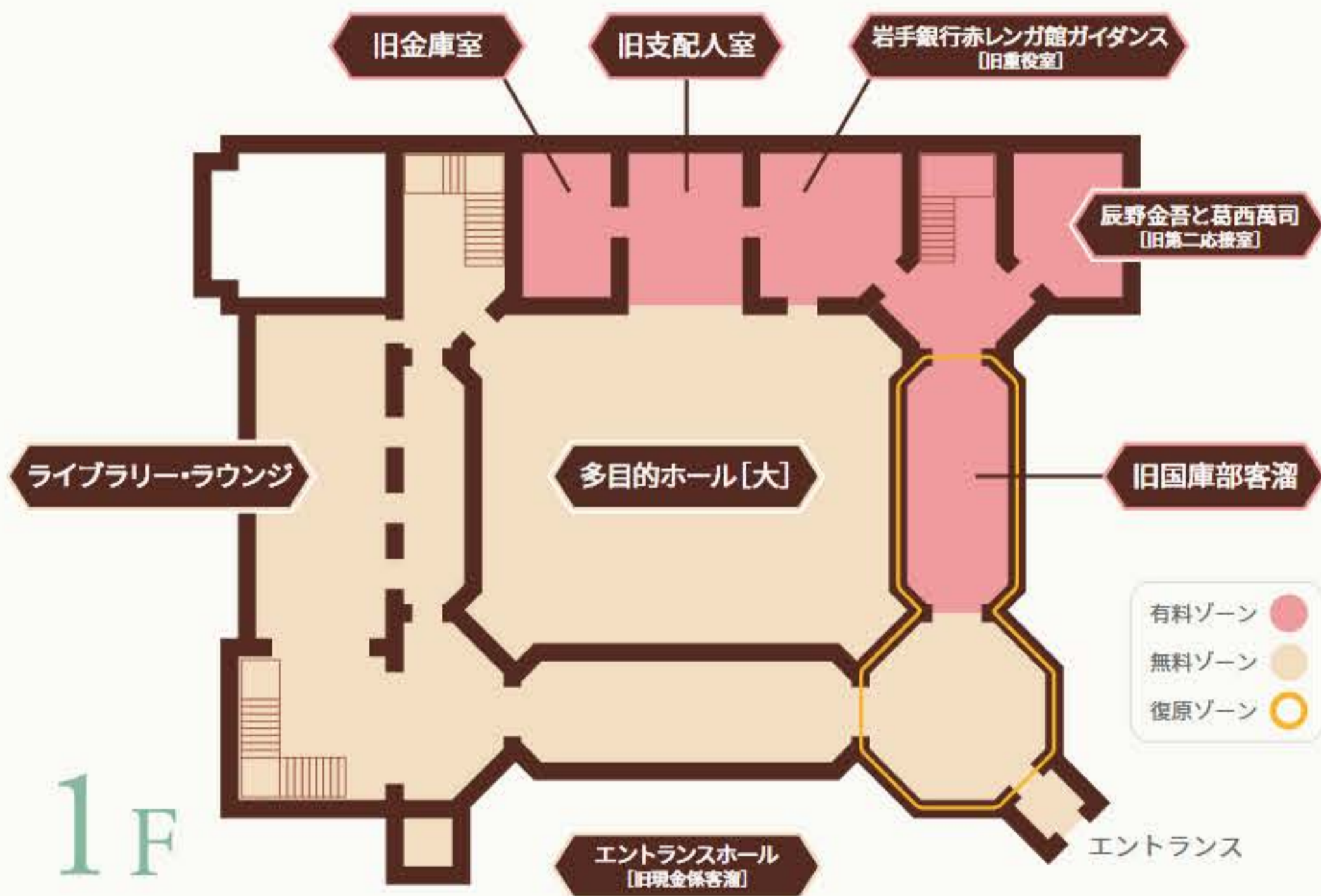
地域や県内の産業・文化・経済活性化へ寄与するためのゾーンです。
どなたでも利用できるスペースと、近隣の方々をはじめとする多くの県民・市民がくつろぎに気軽に立ち寄れるスペースを設けています。また、イベント開催や地域交流活動等に利用できる多目的スペースも設置しています。

盛岡銀行ゾーン(有料)

応接室や重役室・会議室といった赤レンガの重要施設を開館当時のままに、復元したゾーンです。
当時のまま再現された内装を十分鑑賞していただきながら、解体時に発見された資料や、銀行として活躍していた当時の資料を展示しています。

※黄色い線で囲まれた部分が盛岡銀行ゾーンとなります。

フロア案内



赤レンガ館について

お知らせ

イベント情報

お問い合わせ

ご利用案内

赤レンガ館のご利用について

開館時間	10:00～17:00(入館は16:30まで)
休館日	毎週火曜日、年末年始(12月29日～1月3日) ※施設の設定点検・修理等でご利用頂けない場合もございます。

ご利用にあたっての注意事項

- 館内での飲食・喫煙は禁止となっております。
- 飲食場所としてのご利用はできません。
- 荷物の預かりはできませんので、ご注意ください。
- 当施設専用の駐車場はございません。近隣の駐車場をご利用ください。
- 当施設では、施設内の多目的スペースの一般貸出をおこなっております。つきましては、来館当日に当該スペースで催事等がおこなわれていることがありますので、あらかじめご了承ください。

有料ゾーン(盛岡銀行ゾーン + バーチャルシアター)

当施設的设计は、東京駅でも知られる辰野・葛西建築設計事務所によるもので、辰野金吾が設計した建築としては東北地方に唯一残る作品です。重要文化財としての価値・情報の提供や展示をはじめ、バーチャルシアターでの設計者や当施設が持つ魅力・勝ちの紹介など、多彩なプログラムを準備しております。

ご利用料金

区分	個人	団体(10人以上)
一般(16歳以上)	300円	200円
小・中学生	100円	50円
未就学児童(7歳未満)	無料	—

次に該当する方は無料で入場できます。

障がいをお持ちの方やその介護をなさる方(障がい者1人につき1人まで)
※障害者手帳の提示が必要になります。

団体利用について

申込期間

利用申請書は、利用日の6か月前から申込可能です。

申込方法

「学校・団体利用申請書兼受付確認書」を当館に持参または郵送もしくはFAXをお願いいたします。

[学校・団体利用申請書\(兼受付確認書\)\[20160426版 PDF\]](#)

その他の詳細については「学校・団体利用の手引き」をご確認ください。

[学校・団体利用の手引き\[20160426版 PDF\]](#)

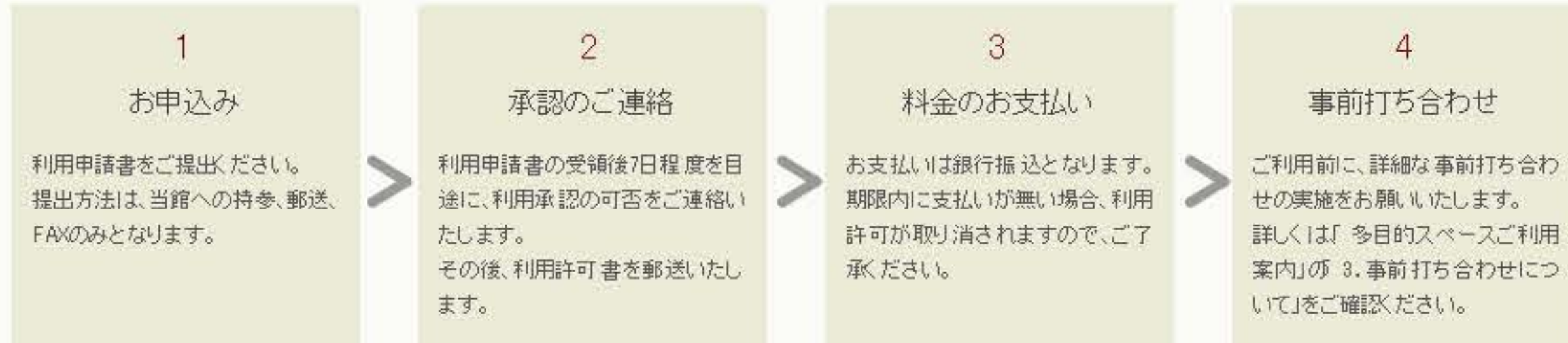
多目的スペース

当施設が多目的スペースは、地域の文化交流や復興、市民交流など幅広い利用に供することを目的として、事前予約制で貸出を行っております。赤レンガ館の歴史を感じる空間の皆さまのご利用をお待ちしております。

貸出スペースの概要		
名称	多目的スペース 大	多目的スペース 小
場所	1階	2階
延床面積	約155平方メートル	約51平方メートル

利用時間	利用料金(税込)	
	多目的スペース 大	多目的スペース 小
午前(10:00～13:00)	3,500円	1,500円
午後(13:00～17:00)	4,000円	2,000円
全日(10:00～17:00)	8,000円	3,500円

申込みからご利用までの流れ



申込期間

利用申請書は、利用日の3か月前から14日前まで受付しております。

申込方法

- お申込みには利用申請書の申請が必要となります。
[多目的スペース利用申請書\[20160426版 PDF\]](#)
- 提出方法は、当館への持参または郵送もしくはFAXのみとなっております。電話予約は受け付けておりません。
- 利用日が重複した場合は、利用申請書を提出頂いた先着順で受け付けを行います。
- 利用申請書受領から、1週間程度で利用承認の可否をご連絡し、利用許可書を郵送いたします。

貸出施設ご利用の際のご注意

- 申請時間内で、搬入・準備・本番・撤収・現状回復を行っていただくよう、お願いいたします。
- 会場内のレイアウト変更は、利用者にて対応いただきます。
- 利用終了後には、必ず開始時のレイアウトに現状回復していただきます。
- 搬入出のスケジュールなど作業計画書は事前に提出をお願いいたします。
- 機器等の持ち込みは、利用当日にご持参いただくよう、お願いいたします。当施設においての事前預かりは行いません。
- 多数の来場者が予想される場合は、事前に警備計画書の提出をお願いいたします。
- その他の詳細については「多目的スペース ご利用案内」をご確認ください。
[多目的スペース ご利用案内\[20160426版 PDF\]](#)


赤レンガ館について

お知らせ

イベント情報

お問い合わせ

「イベント」一覧

 [いわてアートプロジェクト2016 マグダレナ・ソレ「Since That Day 展」、高校生写真公募展](#) >

イベント

🕒 掲載:2016年09月30日

- 日時:2016年9月30日(金)~10月11日(月)
- 場所:多目的ホール大・小
- 主催:いわてアートプロジェクト2016実行委員会

世界的に著名なマグダレナ・ソレさんの写真展と高校生の公募写真展です。
希望郷いわて国体・希望郷いわて大会の文化プログラムのひとつとして開催されます。


 [岩手銀行赤レンガ館 オープン記念イベント](#) >

イベント

🕒 掲載:2016年07月17日

- 日時:2016年7月17日(日)
- 場所:多目的ホール大
- 主催:株式会社岩手銀行

岩手銀行主催のオープン記念イベントを行います。
イベントの内容等詳細は決定次第お知らせします。

 [岩手銀行赤レンガ館 オープニングセレモニーについて](#) >

イベント

🕒 掲載:2016年07月17日

- 日時:2016年7月17日(日)
- 場所:多目的ホール大
- 主催:株式会社岩手銀行

10:00のオープンに合わせ、オープニングセレモニーを行います。

赤レンガ館について

お知らせ

イベント情報

お問い合わせ

お問い合わせ



施設に関するお問い合わせ

📍 岩手銀行本店

☎ TEL:019-623-1111(代表)



取材・撮影に関するお問い合わせ

📷 岩手銀行 総合企画部 広報CSR室

☎ TEL:019-624-8212

📠 FAX:019-652-6751



赤レンガ館について

お知らせ

イベント情報

イベントカレンダー

よくあるご質問

お問い合わせ

サイトマップ

盛岡市の歴史を見つめてきたランドマークが新たに幕を開けます。

岩手銀行赤レンガ館 オープニングセレモニー・記念イベント

2016年7月17日(日)

オープニングセレモニー

- セレモニー 9時20分～45分
- 会場 1階 多目的ホール(大)

記念イベント

- 講演会・音楽会 主催：株式会社岩手銀行
協力：岩手県文化振興事業団
- 会場 1階 多目的ホール(大)

*無料イベント
*100名弱の会場です。
立見または入場制限させて頂く場合がございます。予めご了承願います。



I 講演会 13時00分～

- 講演テーマ 保存修理工事を通して改めて見出した「岩手銀行赤レンガ館」の魅力
- 講演会講師 津村 泰範

※保存修復工事に携わり、文化財の価値を検証された津村泰範氏(元文化財保存計画協会)より建物の見所などに関する講演を実施。



講師プロフィール

東京大学工学部建築学科卒業・同大学院修士課程修了
元(株)文化財保存計画協会主任研究員
岩手銀行旧中ノ橋支店 重要文化財保存修理工事設計に携わる
現、長岡造形大学造形学部建築・環境デザイン学科 准教授

II 音楽会 14時15分～

- 奏者・演目 ピアノ奏者 森 知英
ショパン：ノクターン第二番 変ホ長調 作品9-2 ほか
- オーボエ奏者 戸田 智子
T. ラリエ：「ヴェニスへの謝肉祭」の主題による序奏と変奏曲 Op.20 ほか
(ピアノ伴奏：森 知英)



奏者プロフィール

森 知英(もり ちえ) 岩手県出身
東京藝術大学音楽学部卒業、同大学院修士課程修了
1989年 第8回ベートーヴェン国際ピアノコンクール第4位
1995年 第13回ショパン国際ピアノコンクールに日本ショパン協会より日本代表として派遣、
デュプロマを得る



戸田 智子(とだ ともこ) 岩手県花巻市出身

2014年3月 東京藝術大学大学院音楽研究科修士課程修了
2014年4月より、東京藝術大学管弦楽研究部非常勤講師(藝大フィルハーモニアオーボエ奏者)

銀行名	七十七銀行
タイトル	全国高校生金融経済クイズ選手権「エコノミクス甲子園」宮城大会の開催
取組み内容	<p>【動機（経緯）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 人生設計や生活防衛に不可欠な金融経済知識を習得する教育事業を行うことを通じて、地域への社会貢献を推進する観点から、特定非営利活動法人金融知力普及協会との共催により、全国高校生金融クイズ選手権「エコノミクス甲子園」宮城大会を開催した。宮城大会の開催は今回で7回目となる。 <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 開催日：平成 27 年 12 月 13 日（日） ・ 会 場：当行本店 4 階大会議室 ・ 参加者数：県内 9 校から 29 チーム 57 名が参加 ・ 競技内容 金融経済に関する時事問題や専門分野等からクイズ問題を出題。筆記クイズと早押しクイズによる予選を行い、上位 6 チームが決勝に進出。ボードクイズによる決勝を行い、優勝チームが全国大会へ出場。 <p>【取組みの効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 参加者へのアンケート結果をみると、「参加して楽しかった」との意見が 9 割超となっていることから、大会開催についての評価は概ね良好であった。また、「大会に備えて勉強・対策した」との回答が 7 割超となっており、金融経済知識習得の意識付け等に一定の効果があった。

銀行名	七十七銀行
タイトル	東北学院大学への提供講座開設
取組み内容	<p>【動機（経緯）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 金融教育を通じた社会貢献活動の一環として、東北学院大学経営学部に銀行実務をテーマとした提供講座を開講。 平成23年度より同大学での提供講座を開講しており、今回で5回目となる。 <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 講座名称：総合講座（株式会社七十七銀行提供講座） 講義内容：主に当行の主要業務の概要および地域経済における地方銀行の役割についての講義（預金業務、貸出業務、国際業務他） 開設期間：平成27年度後期（9月～1月） 講義回数：15回（1講義90分）うち当行行員講義12回、担当教授講義3回 受講者数：234名（参考：平成25年度251名、平成26年度163名） <p>【取組みの効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本講座は毎年度多数の学生が受講。講義では、当行行員が金融の仕組みや銀行の基本的業務（預金・貸出・為替等）について実務的な観点から分かりやすく解説し、当行の地域貢献業務についての内容も盛り込むなど、地域金融機関としての役割などについても取り上げた。 受講学生のアンケート結果をみると、「理解できた」「興味をもてた」との回答が9割超と、講義内容についての評価・理解は概ね良好であり、金融教育に一定の効果があった。

銀行名	七十七銀行
タイトル	体験型教育プログラム「スチューデント・シティ」の活動支援
取組み内容	<p>【動機（経緯）】</p> <ul style="list-style-type: none"> 金融教育を通じた社会貢献活動の観点から、仙台市が取組む体験型教育プログラム「スチューデント・シティ」に当行が協賛し、平成26年9月より活動支援を開始。 「スチューデント・シティ」とは、世界最大の経済教育団体である米ジュニア・アチーブメントの日本本部「公益財団法人ジュニア・アチーブメント日本」の教育プログラムで、東日本大震災の被災地復興を目的とした「カタルフレンド基金」の支援により新たに仙台に開設されたもの。 <p>【取組み内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成27年度活動期間：平成27年5月21日～平成28年2月19日 平成27年度活動回数：76回 活動施設：就業体験施設「仙台子ども体験プラザ - E l e m」 平成27年度参加小学校数：仙台市内小学校122校 平成27年度参加児童数：仙台市内小学5、6年生8,627名 活動内容 <ul style="list-style-type: none"> 施設内のブースに再現された金融機関、市役所、小売業、サービス業などの店舗・事務所において、児童が従業員や顧客となり、経済や社会の仕組み、仕事の流れ、お金とは何かなどを学ぶ。なお、「スチューデント・シティ」での学習は、仙台市内の小学校5、6年生の授業カリキュラムに組み込まれている。 平成26年9月から活動を開始し、平成27年度以降は仙台市内のすべての公立小学校が参加している。 <p>【取組みの効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験学習によって経済やお金の流れ等を勉強することができ、参加した児童からも「大変勉強になった」等の意見が多く、小学生の金融教育に一定の効果があった。

銀行名	荘内銀行
タイトル	公益信託荘内銀行ふるさと創造基金
取組み内容	<p>真に豊かで潤いのある地域社会を築くため、県内各地域の特性を活かした自主的・主体的な活動に助成金・顕彰金を贈呈する基金として平成 13 年に設立しました。「学校における教育的な活動」「地域住民と一体となった社会教育的な活動」「県内に伝わる文化的な活動」の 3 つのテーマに別け、それぞれの活動に資する取組を支援しています。</p> <p>平成 24 年には、これら 3 つのテーマに基づいた助成先の中で、豊かな地域社会の創造に向けた独自の活動を展開し、活動の継続性と発展性の面で顕著な取り組みがあった団体を顕彰するため、「荘内銀行ふるさと創造基金地域貢献大賞」を設立しました。</p> <p>平成 28 年度には過去最高となる 67 団体へ助成金を贈呈し、地域貢献大賞による顕彰先を加えた合計先数は 579 先、金額は 1 億円を超えるに至っています。</p>



銀行名	荘内銀行
タイトル	スポーツ振興への取組み
取組み内容	<p>山形県の野球振興に資するため、山形県野球場のネーミングライツスポンサーを平成 29 年 3 月まで日新製薬(株)様と共同で取得しています。</p> <p>また、プロスポーツチームの応援を通じたスポーツ振興にも取り組んでいます。山形県に本拠地を構えるモンテディオ山形や楽天イーグルスのオフィシャルスポンサーとして、応援定期預金の販売や、冠協賛試合の開催、あるいは地域の小学生を対象とした教室も開催しています。</p> <p>その他、「荘内銀行頭取杯」山形県少年選抜 U-10 サッカー大会、「荘銀カップ争奪」西村山ジュニア卓球大会の開催や、マラソン大会等のスポーツイベントへの協賛にも取り組んでいます。</p>


銀行名	荘内銀行
タイトル	荘銀かねやま絆の森における森づくり活動
取組み内容	<p>平成 22 年 3 月に山形県・地元林業者の有限会社三英クラフト・当行との間で三者協定を締結して以降、「荘銀かねやま絆の森」の森づくり活動に取り組んできました。</p> <p>平成 27 年 4 月には、新たな協定締結者として金山町を迎え、第一回の森づくり活動を 5 月 30 日に実施しました。地域の小学生や住民の皆様約 50 名を含む、総勢 140 名が参加し、下草刈り、キノコの植菌、山菜料理などの地域料理体験、間伐材を利用したベンチ制作を行いました。制作したベンチは、参加いただいた小学生にプレゼントするなど、森づくり活動を通して地域との交流を図りました。</p> <p>今後は、更に地域の活性化を意識した新たな森づくり活動を展開していく予定です。</p>

銀行名	山形銀行
タイトル	森林整備を主体とした環境保全活動への取り組み
取組内容	<p>1. 自治体や地元信用金庫等との連携による森づくり活動の展開</p> <p>2. 間伐委託事業によるカーボンオフセットへの取り組み</p> <p>【経緯、動機】</p> <ul style="list-style-type: none"> 山形県は県土の約70%が森林(面積は都道府県で8番目)であり、県民の貴重な水源としての役割を担うとともに、県内全市町村に存在する温泉や、四季の鮮やかな自然景観など、多くの恵みをもたらしてきた。 山形県では、かねてより国の制度などを活用し、企業の森林整備活動に対する支援を行ってきたが、平成22年度から独自の支援事業として「やまがた絆の森プロジェクト」を実施している。 当行では平成22年度に山形県や地元信用金庫などとの連携により、「やまがた絆の森協定」を締結。「ぐるっと花笠の森」活動として、県内の森林整備に取り組んでいる。 また、県が創設したCO2吸収量の認証制度を活用し、当行の本店ビルが年間で排出するCO2量約1,200トンのカーボンオフセットへ向けた取り組みも同時に進めている。 <p>【取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 絆の森協定にもとづき、県内各4地域において、年1~2回の植樹や下刈り、歩道整備、森林教育などの森づくり活動に取り組んでいる。 5年間の協定期間(平成22年度~27年度)中には、2,200名を越える役職員や地域住民が活動に参加、身近な環境保全活動として根付いている。 カーボンオフセット事業は、蔵王国定公園等における間伐委託事業を主体としており、「やまがた絆の森協定書(やまぎん蔵王国定公園の森)」を締結し、事業進行中である。 当行が120周年を迎える平成28年度に7年間の事業が完了し、カーボンオフセットが実現する見込みである。 <p>【当該取組みの成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 山形県や地元信用金庫などとの「やまがた絆の森協定」は5年間の協定期間満了に伴い、平成27年度に期間を5年間延長しており、取り組みを継続していく。 上記環境活動への取り組みは、役職員の環境保全への意識向上はもちろん、地域住民との交流を通じ、円滑な地域社会の形成に大きく寄与している。 森づくり活動やカーボンオフセット事業を通じ、日常業務においても、事務用品の再利用や節電への取り組みなど、CO2削減や環境保全に向けた役職員の意識高揚が着実に図られている。

銀行名	東邦銀行
タイトル	卓上型対話支援システム「COMUOON(コミュニケーション)」の設置
取組み内容	<p>(1) 窓口にご来店いただくお客さまに、より安心してご利用いただけるよう、窓口担当者の声をより明瞭にして、お客さまの聴こえを向上する卓上型対話支援システム「COMUOON(コミュニケーション)」を設置</p> <p>(2) 本システムの全店設置は東北の地方銀行で初めての取組み</p> <p>(3) 平成28年の10月までに全営業店(インターネット支店を除く)に設置予定</p>

銀行名	東邦銀行
タイトル	海外発行カード対応A T Mの設置
取組み内容	<p>(1) 多くの外国人旅行者が訪れる福島県において、海外で発行されたクレジットカードやキャッシュカードで日本円を引き出したいという外国人のニーズに応えるべく、セブン銀行と共同で福島空港へ海外発行カード対応A T Mを設置</p> <p>(2) 海外発行カード対応A T Mの設置は東北の地方銀行で初めての取組み</p> <p>(3) 本取組を通じて福島県をはじめ、東北の観光誘客支援につなげていく</p>


銀行名	常陽銀行
タイトル	「金融教育」への取組み
取組み内容	<p>【取組み経緯】</p> <p>これからの時代を担う子供たちを取りまく経済・社会的環境が大きく変わるなか、近年、お金の大切さや銀行の役割など、金融について学ぶ「金融教育」を求める声が高まっている。</p> <p>当行はこれまでも、銀行本支店の見学や、金融に関する講義など、様々な取組みを行ってきたが、より多くの子供たちに金融について学ぶ機会を提供するため、プログラムの追加や、金融教育プラン「お金とアートを学ぶスクールプラン」、出前「金融教室」の実施など、金融教育の内容充実を図った。</p> <p>【概要】</p> <p>常陽銀行 Presents 「お金とアートを学ぶスクールプラン」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当行の 80 周年事業の一環として、地域の将来を担う県内小中学生の金融リテラシーの向上、ならびに地域の文化振興への貢献を目的に実施。 ・内容としては、学校からの送迎バスを提供し、常陽史料館 での金融教室と、茨城県近代美術館の見学を組み合わせた金融教育プラン。 ・お金の歴史や役割についての講義や模擬札を使った札勘定体験、1 億円の重さ体験などの「金融教室」に加え、茨城県近代美術館の協力のもと、少人数のグループに分かれ、ボランティアガイドの解説を聞きながら館内の見学を行い、美術にふれる機会を提供した。 <p>常陽史料館...当行創立 60 周年を記念し平成 7 年に設立。貨幣や銀行に関する資料を「貨幣ギャラリー」で展示しているほか、郷土文化や金融に関する図書資料を「史料ライブラリー」で公開している。</p> <p>出前「金融教室」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校の希望に基づき、学校に出向き、金融に関する講義を実施。 ・昨年度より、行員のほか、コミュニケーションロボット「PALRO」による講義、金融に関するクイズを実施。 <p>各営業店での「金融教室」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当行本支店等で、支店内見学や講義、模擬紙幣による札勘定体験など、学校の希望に合わせプログラムを実施。 <p>【取組み結果】</p> <p>平成 27 年度「金融教育」参加者数：995 名</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>「お金とアートを学ぶスクールプラン」の様子</p>

銀行名	常陽銀行
タイトル	創立 80 周年記念事業「感謝プラン 80」の実施
取組み内容	<p>【取組み経緯】 当行が平成 27 年 7 月 30 日に創立 80 周年を迎えるにあたり、記念事業の一環として、地域の皆さまの日頃のご支援に感謝し、県・市町村への寄贈を通じて明るい地域社会の未来創造に貢献することを目的に、「感謝プラン 80」を実施した。</p> <p>【取組み結果】 茨城県、県内 44 市町村および県外の店舗所在地 21 市を対象に、教育・福祉・防災・観光等の諸分野において、地域の未来に資する取り組みなどに向けた寄贈を実施。 寄贈にあたっては、自治体毎に首長等が出席する目録贈呈式を実施し、当行が目指す姿である「地域の未来を協創するベストパートナーバンク」を自治体および地域の皆さまにアピールしたほか、行員にもその理念を浸透させる良い機会となった。</p> <p>【贈呈例：茨城県への贈呈内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学校 3 校に対する学習用タブレット 23 台 ・科学の甲子園ジュニア大会茨城県大会出場 15 行への助成 ・理科教科担任制モデル校 44 校への助成 ・水郷筑波サイクリング環境整備事業へのレンタサイクル用自転車 14 台 <p>(茨城県への記念品贈呈式の様子)</p> 

銀行名	足利銀行
タイトル	<p>金融経済教育への取組み</p> <p>【1】全国高校生金融経済クイズ選手権「エコノミクス甲子園」栃木大会の開催</p> <p>【2】「あしぎんキッズスクール『お金の体験学習』」の開催</p> <p>【3】宇都宮大学への寄附講座</p>
取組み内容	<p>【1】全国高校生金融経済クイズ選手権「エコノミクス甲子園」栃木大会の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 25 年より、例年「全国高校生金融経済クイズ選手権『エコノミクス甲子園』栃木大会」を約 30 名の行員が運営スタッフとなり開催している。 ・平成 27 年 12 月に開催した第 3 回栃木大会では、栃木県内の高校 9 校 15 チーム、30 名の高校生が参加。 <p>(内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一ラウンドで「筆記クイズ」、続く第二ラウンドで「早押しクイズ」、決勝ラウンドでは「記述クイズ」で競う。事前に配布したテキストからの出題のみならず時事問題も出題され、日頃からの経済全般に対する関心の高さが問われる問題となっていた。 <p>(取組効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加した高校生たちはみな真剣に取り組み、「県内の他校の高校生としてのぎを削ることができてよかった。」「これからも金融・経済の勉強をしていきたい。」等、好評を得ている。 <p>【2】「あしぎんキッズスクール『お金の体験学習』」の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 20 年より、例年夏休みの期間を利用して、地域の子供たちにお金の大切さや銀行の役割を楽しく学んでもらうため、小学生 4～6 年生とその保護者の方を対象とした「あしぎんキッズスクール『お金の体験学習』」を開催している。平成 27 年は第 7 回目の開催となり 21 組 46 名の児童とその保護者が参加。 <p>(カリキュラム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「おこづかいゲーム」は栃木県金融広報委員会の協力によるもの。もらったおこづかいから預金やお買い物をするたびにおこづかい帳をつけてお金を管理するゲームでお金の上手な使い方を学ぶ。 ・子供たちが「おこづかいゲーム」をしている間、保護者の方々には「子供たちへの金銭に関わる教育方法」などの講義を実施。さらにお金に関するクイズや銀行の仕事と役割、銀行本店内の見学など、一日を通したカリキュラムを実施している。 <p>(取組効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童にはおこづかい帳のつけ方や銀行業務について楽しく学んでもらい、参加保護者には、お子さまへの金銭教育の指導を講義するなど、好評を得ている。 <p>【3】宇都宮大学への寄附講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 22 年より、地域の発展や社会貢献および人材育成に資する取組みの一環として、例年、宇都宮大学への講座提供を行っている。当行および関連会社の役職員が講師となり、「地方銀行の歴史に学ぶ“金融経済の仕組み”と“地域金融機関の役割”」をテーマに、全 15 回単位数 2 単位の講座を実施している。

【講座内容】	
	内容
第1回	オリエンテーション（今後の授業の概要、当行の歴史等）
第2回	当行設立の背景（直接金融・間接金融、信用創造、明治期の織物の生産・流通の仕組み等）
第3回	北関東の経済情勢と経済を見る物差し
第4回	「電子マネー」は貨幣といえるか？（貨幣と決済、信用について学ぶ等）
第5回	大正期における金融経済情勢と当行の状況、大正期のバブル経済を踏まえた平成のバブル等
第6回	峰町支店見学
第7回	当行の「地方創生」への関わり
第8回	銀行のリスク管理と健全性の確保
第9回	A B L を活用した中小企業活性化支援
第10回	戦後の金融情勢と当行等
第11回	平成28年度の日本経済と地域経済の見通し
第12回	銀行における C S R
第13回	金融の円滑化と地域密着型金融への取り組み
第14回	資産運用の必要性について
第15回	地域金融機関の今後の課題・対応、これまでの講義のまとめ

銀行名	足利銀行
タイトル	<p>環境保全への取組み</p> <p>【1】足尾の山への植樹活動</p> <p>【2】『あしぎんの森』の創設</p>
取組み内容	<p>【1】足尾の山への植樹活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 21 年より、例年「新入行員社会貢献活動研修」の一環として、新入行員全員による公害で荒廃した足尾の山への植樹を行っている。 ・平成 27 年度は、当行新入行員 80 名とともに栃木県内の有力企業経営者の経済団体である栃木県産業協議会会員企業の新入社員 102 名が参加した。 <p>(取組効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・植樹後には、足尾が荒廃した歴史を振り返りながら「環境問題と企業の関わり方」という環境問題に関する講義を実施。職員への啓蒙に努めている。 <p>【2】『あしぎんの森』の創設</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成 23 年 12 月に、栃木県、矢板市と「企業等の森づくりに関する協定」を締結し、栃木県県民の森（矢板市）に『あしぎんの森』を創設。 ・平成 24 年 4 月に植樹式を執り行い、当行職員とその家族 250 名が参加し、森面積約半分の 0.25ha にヤマザクラやイロハモミジなど 715 本を植樹。平成 25 年度も総勢 300 名で残り半分の斜面への植樹を実施。2 年間にわたり延べ約 550 名による 1,455 本を植樹している。 ・この植樹により、栃木県より「とちぎカーボンオフセット制度」に基づく計 2.88 トンの CO₂ 削減が認証された。 ・平成 26 年度からは歩道整備や下草の除去・伐採など整備作業を行い、平成 27 年 10 月、約 70 名の役職員による歩道整備や下草刈り等の環境整備活動を実施。また、歩道手前にヤマアジサイ（20 本）の植樹を行った。 <p>(取組効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『あしぎんの森』は、県民の森の駐車場および遊具が設置されている広場に隣接しているので、ここを訪れる皆さまにヤマザクラ等の四季折々の自然の美しさを感じて頂いている。

銀行名	群馬銀行
タイトル	社会貢献活動への取組み
取組み内容	<p>1. 動機（経緯）</p> <p>企業理念「地域社会の発展を常に考え行動すること、これが私たちの事業です」、「よき企業人であるためによき市民であること、これが私たちの活動の基本です」に基づき、本業を通しての地域貢献のほか、ボランティア等の社会貢献活動や文化支援活動を行っている。</p> <p>2. 取組み内容</p> <p>(1) 地域社会への貢献活動</p> <p>AEDの全店設置 点字名刺の全店での使用、点字通知サービス、ホームページの音声読み上げ機能追加など障がい者に配慮した取組みの実施。 助聴器、耳マークプレート、コミュニケーションボードなど各種コミュニケーションツールの全店窓口への設置。 町内会活動、清掃活動、商工会議所活動、地域のお祭りへの参加。 富岡製糸場清掃活動「リレー・フォー・クリーン」への参加。</p> <p>(2) スポーツ振興</p> <p>バレーボール部「群馬銀行グリーンウイングス」の国体およびVリーグへの参加。 「ぐんぎん杯ママさんバレーボール大会」の開催(平成25年～)、バレーボール部によるバレーボール教室の開催。</p>  <p>C. ぐんま県民マラソンへの協賛。行員がボランティアに多数参加。 (平成27年度74名参加)</p> <p>(3) 芸術・文化の振興</p> <p>群馬交響楽団への支援。 賛助会員になるとともに、定期演奏会への協賛を実施。 群馬の風土を記録した「新春特別番組」の制作。地元テレビ局で元日に放送。平成11年1月からこれまで18作を制作。 平成28年は「麦のぬくもり～ぐんまの粉食文化～」を制作。 番組DVDを県内学校に寄贈。28年は県教育委員会に622枚寄贈。</p>

富岡製糸場・絹産業遺産群保護活動応援ファンド「群馬の絹遺産」の取扱い。信託報酬の一部を「富岡製糸場と絹産業遺産群」保護のために寄付。(平成27年度～、平成27年度寄付金 約1百万円)

3. 取組みの効果

- (1) 社会貢献活動への取組みを通じて、地域の一市民として地域社会における役割を果たしていく。
- (2) 行員の社会貢献活動への意識が高まった。

銀行名	群馬銀行
タイトル	環境問題への取り組み
取り組み内容	<p>1. 動機（経緯）</p> <p>「群馬銀行環境方針」の制定（平成 21 年 5 月 1 日） 当行の環境への取組方針を明確化し、全行員の環境意識の向上を図るために制定。環境方針に基づく施策の実施や金融商品・サービスの提供を積極的に行っている。</p> <p>（１）群馬銀行環境方針 環境と産業が両立する真に豊かな地域社会の実現を目指し、ふるさとの自然環境を大切にしていきたいと考えています。 環境保全に積極的に取組み、市民としての責任ある役割を果たしてまいります。</p> <p>（２）環境行動基準 省資源、省エネルギー、リサイクル活動を推進し、環境への負荷の低減に努めます。 金融商品・サービスの提供などを通じて、環境保全に取組みお客さまを支援します。 役職員に対する環境教育を推進し、役職員の環境保全活動を支援します。 地域における環境保全活動を支援します。</p> <p>2. 取組み内容</p> <p>（１）当行の取組み</p> <p>A. 商品・サービスを通じた取組み 自然環境保護ファンド「尾瀬紀行」の取扱い。 信託報酬の一部を公益財団法人尾瀬保護財団に寄付。 （平成 27 年度までの寄付累計約 10 百万円） 環境配慮型私募債の取扱い。 環境に配慮した取組みを行う取引先の私募債発行手数料を優遇。 省エネローン、マイカーローンの金利優遇。 環境に配慮した住宅設備を購入する場合の住宅ローンやエコカーを購入する場合のマイカーローンの金利を優遇</p> <p>B. その他の取組み 一部店舗に太陽光発電設備を導入。また、本部等に省エネタイプの空調、照明機器を導入。 「電気自動車用充電スタンド」1 台を平成 26 年 9 月に本店駐車場に設置。 「クールビズ運動」の実施 県有林整備パートナー事業実施協定」を群馬県と平成 24 年に締結。赤城山内の県有林 3.69ha を「ぐんぎんの森」と命名し、整備に協力。毎年、新入行員研修で間伐・枝打ち作業を行い、環境意識向上に努める。</p>

(2) 公益財団法人群馬銀行環境財団の取組み

平成7年に企業理念である「地域社会の発展を常に考えて行動すること」の実践活動の一環として公益財団法人群馬銀行環境財団を設立。快適で健全な環境の整備・保全を目指し、助成活動や啓発活動を実施。

A. 助成事業

財団賞...群馬県内の環境保全に取り組む団体個人を表彰し助成金(1先あたり20万円)を交付。

教育賞...環境活動に取り組む小中高校を表彰し、助成金を交付。

B. 啓発事業

環境体験学習「環境探検隊」(中学生対象)の実施

平成8年から毎年2回実施。参加者累計219校、1,543名




環境体験学習「エコ・キッズ・キャンプ in 赤城山」(小学生対象)の実施平成17年から毎年1回実施、これまで11回実施し参加者累計90校、293名

群馬県の実施する「環境にやさしい買物スタイル普及活動」に協賛し、特製マイバッグを作成し、群馬県内の本支店で無料配布を行う。

3. 取組みの効果

(1) 地域社会における環境の取組みへの支援や当行の環境問題への取組みを通じて、銀行としての社会的責任を果たしていく。

(2) こうした取組みを通じて、行員の環境問題への意識の向上を図っていく。

銀行名	群馬銀行
タイトル	金融経済教育への取組み
取組み内容	<p>1. 動機（経緯）</p> <p>よき企業人であるためによき市民であること、これが私たちの活動の基本です」という企業理念に基づき、地域の一市民として、地域社会の役割を果たすために行っている社会貢献活動の一環として「金融経済教育支援」に取組む。</p> <p>2. 取組み内容</p> <p>(1) 「エコノミクス甲子園群馬大会」の主催</p> <p>平成 23 年より高校生を対象とした金融経済教育の場としてクイズ形式で金融の知識を学ぶ機会を提供。 平成 27 年度 10 校 21 チーム（42 名）が参加。</p>  <p>(2) 高校生の本店見学受入れ</p> <p>各高校で実施している「キャリア教育」の一環で実施している職場見学の場として本店の見学を受入れ（平成 27 年度 4 校） 本店営業部で窓口業務、出納業務などの見学、現金センターの見学を行うとともに、銀行業務や金融の役割などをレクチャーしている。</p> <p>(3) 小中学生の職場見学受入れ</p> <p>地元の小中学生の職場見学、職場体験の場として支店見学を受入れ。</p> <p>(4) 大学における出前講座</p> <p>群馬大学、群馬県立女子大学などへ出前講座を行い、金融の仕組みなどについて講義を行っている。</p> <p>3. 取組みの効果</p> <p>(1) 「エコノミクス甲子園」では、「金融について学ぶよい機会となった」など参加者から好評を得ており、金融経済教育の場の提供という目的を果たしている。</p> <p>(2) 本店見学や職場見学では、普段銀行を訪れる機会の少ない生徒たちが、窓口や現金庫の様子を興味深く見学し、銀行業務を理解する機会の提供をしている。</p>